

令和元年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題名	
「高校生版DMO」の活動を核とした地域観光ビジネス教育プログラムの開発	
2 研究の概要	
<p>本研究では、教科「商業」の学びを通して、将来、観光を軸にして地域社会で貢献できる専門的職業人としての資質・能力を育成するために、教科「商業」としてどのような教育プログラムが有効か、という点について、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技会場地（サーフィン）となった一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて明らかにする。具体的には、『マネジメント』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』の5つの分野に重点を置き、本校生徒が、一宮町を始めとする隣接市町等との連携を軸にしながらか外房地域の多様な関係者を巻き込み、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う組織（＝高校生版DMO）を主体的に運営し、各種観光データの活用による観光マーケティング戦略の策定や、「モノ消費からコト消費」の流れに対応した着地型観光商品・サービスの開発及び販売、インバウンド受入体制の構築、首都圏からの観光客をターゲットに据えたプロモーション活動及び関連コンテンツの制作に取り組む過程をとおして、専門的職業人を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科・科目横断的な視点を活用した、観光ビジネスに必要な知識・技術の習得に関する研究 2 「高校生版DMO」としての活動による、実践的な観光人財の育成に関する研究 3 生徒の主体的、協働的、実践的な学びを多面的に評価する方法に関する研究 	
3 令和元年度実施規模	
「第1, 2学年を対象に実施した」	
4 研究内容	
○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）	
第1年次	<p>地域観光ビジネスの基礎的知識や、コミュニケーション能力、情報活用能力など、ビジネスに関する専門的知識・技術を習得させるとともに、地域観光の実状を理解させる。そのために、下記の内容で研究を進める。</p> <p>○5つの分野（『マネジメント』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』）に重点を置き、それぞれ分野ごとに講演会の開催及び該当科目での学習による知識の習得</p> <p>○クロスカリキュラムを利用した効率的な学習カリキュラムの編成</p>
第2年次	<p>1年目の事業に加え、各分野ごとに研究開発を進化させ、観光ビジネスに必要な知識・技術を習得させるとともに、「高校生版DMO」としての活動による、実践的な観光人材を育成する。</p> <p>○学校設定科目「地域観光Ⅰ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロスカリキュラムの実践 ・「高校生版DMO」の実践的な活動研究 ・観光マーケティング塾（初級編）の開催 <p>○「コミュニケーション英語Ⅱ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能動的なコミュニケーション活動と実践的なコミュニケーション能力の定着 <p>○「地理歴史」</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な視点から見た、地域の地理的特徴の理解 ○「プログラミング」 ・一宮町の魅力として紹介する観光名所やイベント、歴史、店舗などについて紹介するマルチメディアコンテンツを作成 (作成するコンテンツは、写真、動画、音声などのデータをフィールドワークで収集し、観光アプリで紹介する一宮町の魅力に関するページ作成)
第3年次	<p>2年目の事業に加え、 各分野ごとの研究開発をもとに、地域に誇りと愛着をもち、より良い地域社会の構築に向けて主体的・協働的に取り組むことができ、専門的知識・技術を駆使した実践力を発揮することで、地域観光ビジネスの活性化を通じて地域社会に貢献できる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「プログラミング」 ・2年次に作成した観光コンテンツをアプリで表示する方法の学習 ・Googleストアにリリースして、ダウンロード数をもとにした作品の評価 (一宮町の観光アプリを開発することにより、IT技術を使った地域振興) ○学校設定科目「地域観光Ⅱ」及び「課題研究」 ・「高校生版DMO」の本格的運営をとおした実践力の育成 ・観光マーケティングの実践的活動 ・一宮町サーフィン競技会会場におけるオリンピック開催中の観光ボランティア活動への参加

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

該当なし

○令和元年度の教育課程の内容（令和元年度教育課程表を含めること）

(1)「情報処理」

一宮町の観光や歴史に関する情報を収集・分析し、グループやクラスなどで観光アプリのアイデアをプレゼンテーションソフトを活用しながらコンテスト形式で発表させる。このことにより、情報収集・活用能力を高め、プレゼンテーションでの効果的な話し方や進め方などの技法を習得させる。そのために、下記の内容で学習を進める。

- ①アイデアを考案する方法についての講演会
- ②観光アプリアイデアを考案するための情報の収集
- ③プレゼンテーションソフトを活用したスライド資料の作成方法の学習
- ④聞き手に分かりやすく伝えるためのプレゼンテーションの学習
- ⑤観光アプリアイデアコンテストの実施

(2)「ビジネス基礎」

①地域観光ビジネスに関する基礎研究として文化祭において、「波乗りマーケット」を実施し、地域の産品を仕入れ、販売し、販売促進までの一連のビジネスを体験させる。

(3)「現代社会」

一宮町の観光資源について調査・研究を行い、風土愛・郷土愛を深め、2年生以降の学習に向かう基礎力を身に付ける。

①一宮町の歴史、自然・概要、特産品、観光、イベント、オリンピックについてグループ学習を実施し、町活性化に向けた提案をまとめる。

(4)「コミュニケーション英語Ⅰ」

外国人観光客を見据えた英語によるコミュニケーション能力の育成として、

- ①外国人の困りごとを解決し、支援するといった内容の講演会を実施する。
- ②上記講演会を受けて、授業の中でボランティアの大切さなどを学習する。
- ③外国人観光客の案内について学習する。

(5)「マーケティング」

①観光マーケティング塾を4日間実施し、マーケティングについての専門的な知識や企画力

を身に付ける。

②身に付けた専門的な知識と企画力を通じて、具体的な戦略に基づいたDMOの運営や商品販売活動にむけた動機付けを行う。

(6) 「地域観光Ⅰ」

①「観光」という言葉の定義や意義、観光資源等について理解する。

②一宮町の観光資源についてフィールドワークや外部講師による講演を通じて理解を深める。

③国際的な視点から見た、地域の地理的特徴を理解するための学習も行う。

(7) 「プログラミング」

1年生の「情報処理」で実施したプレゼンテーションをもとに、観光アプリに掲載する一宮町の魅力を取材し、情報デザインの観点から観光コンテンツを作成する。

①一宮町の観光名所や店舗に対し取材の予約を取る。

②取材対象者とコミュニケーションをとりながら、アプリに掲載する内容を考える。

③ICTを活用して環境コンテンツを作成し、そのための知識や技術を習得する。

(8) 「コミュニケーション英語Ⅱ」

1年生に実施した「コミュニケーション英語Ⅰ」の基礎の上に、

①授業における実践的なコミュニケーション活動を実施する。

②英語を用いて行う地域との交流を実施する。

○具体的な研究事項・活動内容

(1) 『観光・地域ビジネス』分野

①「ビジネス基礎」

ビジネス経験のない生徒に、一宮周辺地域におけるビジネスに関する知識を習得させるとともに、初めてのビジネス体験を経験させビジネスについての基礎を学ばせる。

・文化祭に合わせて「波乗りマーケット」の実施

②「現代社会」

一宮町の歴史、自然・概要、特産品、観光、イベント、オリンピックについてグループ学習を実施し、町活性化に向けた提案をまとめる。

・各グループで分担し、調べ学習を実施し、その結果を各グループ内で共有する。

・他グループへ、調べた成果を発表し、あわせて一宮町活性化の提案をまとめる。

・グループ学習を通じて、コミュニケーション能力の伸張も図る。

この学習をとおして、観光ビジネスに関する意識向上や観光アプリ作成に役立てる。

(2) 『国際交流』分野

①ガイダンス：7月18日（木） 1年生 商業科・情報処理科 160名 対象

・研究課題達成に向けた効果的な学習活動が実践されるよう学習目標を確認し、学習スケジュールを提示する。

②講演会：10月9日（水） 1年生 商業科・情報処理科 160名 対象

演 題「バックパッカーとして中南米一人旅を通じて」

・この講演をとおして、今後さらに進むグローバル化と社会の動向について言及し、よりよいコミュニケーション能力を身につけられる資質を向上させる。

③「コミュニケーション英語Ⅰ」

・日本を訪れる外国人観光客が抱える困り事について生徒に客観的な視点で考えさせる。

・オリンピックの歴史や、開催意義について理解し、オリンピックボランティアの役割について理解する。

この学習をとおして、外国人観光客の困りごとを解決し、支援できるコミュニケーション能力を育てる。

④外国人講師による特別授業：11月26日（火）2年生商業科・情報処理科 158名対象

・外国人講師を迎えて、国際社会で通用性の高い欧米のマナーやジェスチャー、言語行動の理解度について確認する。

・国際理解や国際感覚とは何かについて考え、コミュニケーションスキルの向上につなげ

る。

⑤「コミュニケーション英語Ⅱ」

国際交流ユニットの目標に向けた言語活動を系統的に組み込み、教科書の各単元の話題を生かしながら外国人への対応を考える機会を持つこととする。

(3) 『観光コンテンツ』分野

①「情報処理」

- ・観光アプリのアイデア考案
- ・観光アプリアイデアコンテストの開催（「情報処理」各クラスで実施）

このコンテストをとおして、技術的に実現が可能なアイデアを調査し、具体的に形にしていくことができる。

②「プログラミング」

- ・アプリに掲載する観光コンテンツを作成する。
- ・そのための取材を通じてコミュニケーション能力を養う。
- ・コンテンツ作成のための知識や技術を習得する。

(4) 『マネジメント』分野

①一宮町魅力発見プロジェクト（サーフィン国際大会運営体験）

4月28日（日）、30日（火）、5月2日（木）、5日（日）

会場：「一宮町釣ヶ崎海岸」 希望生徒20名程度

- ・サーフィン国際大会『WSL QS6000』の運営ボランティアを体験し、サーフィン大会がどのように運営されているのか知るとともに、競技への興味関心を高める。

②学校設定科目「地域観光Ⅰ」

ア 講演会：5月30日（木）

演題：「一宮町とアカウミガメについて」

- ・「自然との共生」に視点をあて、一宮町でのアカウミガメの産卵状況や、私たちが心がけることを理解し伝えていくことで「未来への継承」の実現を目指す。

イ 一宮町PRチラシ作成及び配布

実施日：8月11日（日）「波乗り甲子園（サーフィンの高校生大会）当日」

場所：「一宮町釣ヶ崎海岸」及び「JR上総一宮駅」

- ・一宮町PRチラシを作成し配布することにより、町の商店の活性化への影響とチラシ配布の効果を学ぶとともに、一宮町に関する知識の獲得を目的とする。

ウ 波乗りフォトコンテスト企画

実施日：8月11日（日）「波乗り甲子園（サーフィンの高校生大会）当日」

場所：「一宮町釣ヶ崎海岸」

- ・学校周辺の観光資源の写真を撮影し、投票していただくことで、一宮町の魅力発信にもつながり、町外の方にとって何が魅力的に映ったのかを知ることが目的とする。

エ 動画制作講座：9月20日（月）

演題：「SDGs」を意識した「今、伝えたいこと」の動画作成講座

- ・一宮町の魅力を伝えるためのCM制作を実現するため、専門の技術者による講義を受けることにより、動画制作スキルの向上を図る。

オ 動画制作

テーマ1：オリンピック参加国の応援ムービー（30秒）

テーマ2：今、伝えたいこと（5分）

- ・この活動を通して、一宮町のPRCM制作のスキル向上を図る。

(5) 『観光マーケティング』分野

1年生では、マーケティングの基礎を学び（①、②）、2年生ではその基礎の上に専門的な学びをおこなった（③）。

①講演会：7月9日（火） 1年生 商業科・情報処理科 160名 対象

演題「一宮町の現状及び町の魅力と課題について（行政機関の専門的立場から）」

- ・この講演をとおして、一宮町が多様な自然環境と人文環境が共存した宝石箱のような町であり、その観光資源を生かした町づくりと今後の課題を理解するとともに、一宮町に

ついて新たな知識を習得し、今後の観光マーケティングに役立てる。

- ②講演会：12月18日（水） 1年生 商業科・情報処理科 160名 対象
演題「千葉ジェッツふなばしが行っているマーケティング戦略について（地域振興活動・ファンサービス・地域行政との取り組み）」
- ・千葉ジェッツふなばしの実際に行っている地域振興活動・ファンサービス・地域行政との取り組み等の話を聞き、マーケティングの意味や大切さを習得する。また、この講演を通し、マーケティングに対しての生徒たちへの意識付けを行う。
- ③観光マーケティング塾 2年生 「地域観光Ⅰ」及び「マーケティング」選択者対象
4日間の日程で、マーケティングの基礎・デジタルマーケティング・観光学（観光マーケティングを含む）の基礎知識の講座を実施
- ・2年生で、このマーケティング塾を行うことにより、マーケティングに関するより専門的な知識や企画力を身につけさせ、来年度への意識付けを目的とする。

5 研究の成果と課題

○実施による成果

（1）『観光・地域ビジネス』

①「波乗りマーケット」実施をとおして

- ・一宮周辺地域におけるビジネスに関する知識を習得させることができた。
- ・仕入れから販売、販売促進まで、ビジネスについての基礎を学ばせることができた。
- ・今後の学習の動機付けができた。

②一宮町の歴史等についてのグループ学習を実施して

一宮町の歴史、自然・概要、特産品、観光、イベント、オリンピックについてグループ学習を実施し、町活性化に向けた提案をまとめることで、一宮町の概要についての知識を得ることができた。また、グループ学習を通じて、コミュニケーション能力も伸張した。あわせて一宮町活性化の提案をまとめることで、観光ビジネスに関する意識向上や観光アプリ作成に役立てることができた。

（2）『国際交流』

「外国人観光客の困りごとを解決し、支援できるコミュニケーション能力の育成」を目標に掲げ、ユニットが目指す「英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成」は、他ユニットの目標達成を補助する役割がある。そのため、2020年に開催される世界的イベントでその成果が発揮されることを強く想定し、着実にコミュニケーション能力を向上させている。

①1年生では、「講演会及び特別授業の計画的な実施によるコミュニケーションへの動機づけ」と「授業における英語の5つの領域の統合的な言語活動実施による基本的なコミュニケーション能力の向上」を2つの柱として学習活動を実施した。「コミュニケーション能力」は全ての教科・領域で学習活動の基盤となるものである。ガイダンスや講演等でコミュニケーション能力の必要性を強く訴え、授業では英語を用いたコミュニケーションの面白さを実感させることを中心に置き、生徒の意欲が高まった。

②2年生では、1年生で獲得した基礎の上に、「授業における実践的なコミュニケーション活動」と「英語を用いて行う地域との交流」を2つの柱として学習活動を展開した。英語を用いたコミュニケーションのもたらす効果を理解し、生徒が日常生活でも実践的に取り入れ、主体的に地域へ関わろうとする意欲を持てるようになった。

（3）『観光コンテンツ』

・観光アプリアイデアコンテストを終えて

①授業や実習等に積極的に取り組むことができ、多くの生徒の学ぶ意欲が高まった。これは、自ら調べアイデアを考えたり、生徒同士で話し合い、発表するといった主体的・対話的で深い学びに対する教育効果に有意性があることが示されている。

②学びを通じて、新たな知識・技術を習得することができ、生徒自身のスキルアップにつながるるとともに、プレゼンテーションに関する知識・技術を体験的に学習することができたと考えられる。

・観光コンテンツを作成して

- ①地元商店や観光名所の取材活動を通して、地域を学びの場として活用することができ、貴重な経験となった。地域住民に学校の学習活動を知ってもらう良いきっかけともなった。
- ②企業経営者の知識や経験を直接学ぶ機会となり、商業に関する学びを活用できる機会ともなった。
- ③情報デザインの概念、構成要素や適切な取り扱い方を経験として学習することができた。
- ④XMLファイルを使った環境コンテンツの開発に実際に取り組むことにより、知識や技術を習得することができた。

(4) 『マネジメント』

・地域との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者と協働して、高校生版DMOを主体的に運営する過程をとおして、専門的職業人を育成することを目指す学習活動の1年目。

- ①1年生では、学習活動を通して、観光や一宮町について興味関心を持たせる、特に、東京五輪サーフィン種目の開催地であることからサーフィンや会場となる釣ヶ崎海岸について興味関心を持たせることができた。また、観光学とDMOについて理解を深めることができた。
- ②2年生では、観光のあり方について理解を深めさせるとともに、サーフィンの大会について理解を深めさせた。また、一宮町の魅力について調査、研究し、理解を深め、一宮町の魅力を発信する力を育むことができた。

(5) 『観光マーケティング』

- ①1年生では、「一宮町の現状及び町の魅力と課題について（行政機関の専門的立場から）」と「千葉ジェッツふなばしが行っているマーケティング戦略について（地域振興活動・ファンサービス・地域行政との取り組み）」の講演を通じて、今まで知らなかったマーケティングの意味や大切さを習得し、マーケティングの基礎を学ぶことができた。講演を通し、マーケティングに対しての生徒たちへの意識付けができた。
- ②2年生では、1年時に講演会で、一宮町の現状と課題について知ることができ、また県内で活躍している企業の担当者からの話により、マーケティングの基礎的な知識を得ることができたので、その一つ上の段階としてマーケティング塾を行うことにより、より専門的な知識や企画力を身につけた。今後の発展学習の基礎づくりができた。

○実施上の問題点と今後の課題

・本校では、観光を軸にして地域社会に貢献できる専門的職業人としての資質・能力を育成するために、どのような教育プログラムが有効か、という点について、一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて『マネジメント』、『観光コンテンツ』、『国際交流』、『観光マーケティング』、『観光・地域ビジネス』の5つの分野に重点を置き、研究を進めていく。

- ①今年度はその2年目として、1年目の基礎の上に、地域観光に興味・関心を持ち、ビジネスとして捉えることのできる人物の育成を期して、地域観光ビジネスに関する基礎的知識や、コミュニケーション能力を基本として、さらにより高度な情報活用能力、ビジネスに関する専門的知識・技術を習得するとともに、地域観光の実状を理解しそれを発展させることを企画できる能力の育成が目標であった。この目標については、実施内容及び成果に記述したとおり、概ね達成できたと思われる。
- ②目標に向けた学習活動の達成度を判断するために、ルーブリック等の評価を示し、それをいかした指導と評価の一体化に取り組む。
- ③地域人材や組織・団体との連携は、本研究の推進に不可欠である。地域の思いと学校の狙いを十分に話し合い、DMOが有効に機能するための望ましい姿は何か、今後も検討を続けていく。
- ④来年度は、最終年度であるため、今までの活動及び問題点を踏まえて、地域観光に関する課題を発見・設定し、専門的職業人としての倫理観をもって合理的・創造的に課題を解決することができる資質・能力を育成していく必要がある。